

<b>開講時期</b>  <b>前期・後期</b>	<b>授業科目</b> <b>国際政治学II A・B</b> <b>(国際政治学A・B)</b> <b>International PoliticsII A・B</b>	<b>担当教員</b>  <b>大磯 正美</b>
<b>授業目標</b> 地域を限定せず「国際政治」を「学ぶ」。グローバルな政治経済の動きを、その歴史的背景や主役たちの心理と同時に理解し、新聞の国際面が楽しみになるレベルにまで到達する。また1年次に遊んでしまった学生の再スタートを助け、国際関係学部学生に必要な「基礎ゼミ」の機能を持たせている。なるべく2年次にとるよう計画してほしい。		
<b>授業概要</b> いま世界は歴史的な大変革の時代を迎えている。ソ連は消滅、西欧はユーロに向かう。国とは何か、国民とは何か？ 理論から実際に進むのではなく、現在進行形の国際政治状況をリアルタイムで分析し、歴史的な位置づけを試みる。対象が多岐にわたり、結果として理論にも分け入るので、卒論のテーマを絞る手がかりが多く得られる。		
<b>授業方法</b> 印刷教材よりはるかに情報量の多い映像教材を多用する。毎時間クイズ(短問)を課すアメリカ方式を、独自に改良して取り入れている。これによって自分で勉強するコツと、論文の書き方を自然に身につけることができる。 安易な履修登録を防ぐため(文部省も規制に乗り出したほど)、受講態度の特に不良な者は年度内であっても警告、リタイアさせることがある。		
<b>授業展開</b> 初回にレジュメを配布し詳しいガイダンスを行うので、必ず出席すること。平成6年度においては、北朝鮮の核問題を取り扱った直後、金日成主席が死去した。同7年度においては、中東和平問題を取り上げている最中、ラビン・イスラエル首相が暗殺された。 このように臨場感あふれた講義運びがこの授業の特徴であるから、年度初めに固定したシラバスを作成していない。…、といっても、一般的に「国際政治学」でカバーする重要なポイントはだいたい決まっているので、年度によって内容が大きく変わることはない。 平成18年度も国際政治は激動が予想される。一生に一度のチャンス！		
<b>履修条件</b> 1年次に、政治学/政治史、国際関係論等のどれか一つを履修しておくことが望ましい。 勉強量が多いため、本講と大磯担当「現代アメリカ論A・B」を同時履修してはならない。2年次以降に分けてとること。		
<b>評価方法</b> 毎時間のクイズで1年間を通して評価する。後期に留学する場合は前期の単位を預りとする。		
<b>テキスト・参考書</b> 1年の時に拙著『「大学」は、ご臨終。』(徳間書店)および『知の技法』(東大出版会)、を必読のこと。 高坂正堯『国際政治』(中公新書)、 入江昭『新・日本の外交』(同)ほか、指定図書の本棚にあるもの。		
<b>備考</b> 国際関係学科のみならず、言文学科にとっても地域研究科目などの基礎となるよう配慮されている。それに気がついて4年生で登録する者が毎年いるので、計画的に履修すること。 ホームページ <a href="http://oiso.net">http://oiso.net</a> 参照のこと。		